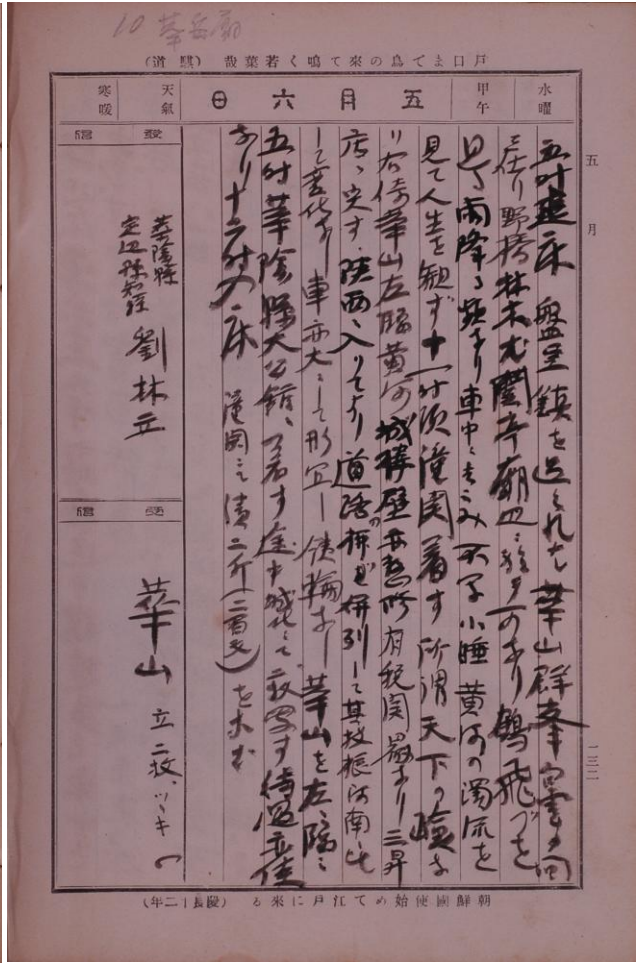
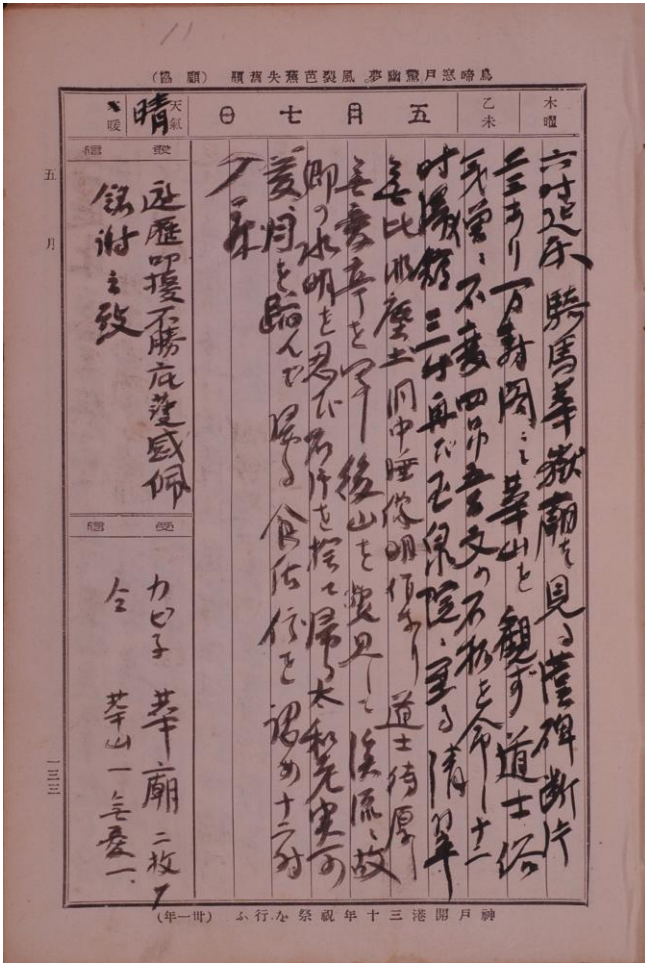


早崎稔吉日記 明治36年(1903)



明治36年2月単身中国に渡った早崎は、3ヶ月ほど北京に滞在した後、西安市にある三原大学堂に向かっている。以後3年半あまり、ここで教鞭を執る一方、東京帝室博物館の嘱託として西安のある陝西(せんせい)地方の文化財調査を行っている。

西安に到着する5日前には「箱根八里」の歌詞で有名な函谷関(かんこくかん)を通っている。掲出の5月6日には潼関を経て中国五岳の一つで、道教の聖地華山を、7日はその麓の華嶽廟や玉泉院を訪れている。

日記欄外には「カビ子※ 華廟 二枚/全※ 華山一 無憂※一」(7日付)など撮影メモも記されている。

※ ガラス乾板のサイズ。約12cm×16.5cm

※ 「同」と同じ

※ 華山にある道教寺院玉泉院にある建物の一つ

明治36年5月6日

五時起床。盤■鎮を過ぐれば華山群峯白雲の間

ニ在り。野椿林木尤関亭廟辺ニ■ヲ可なり。鶴飛ブを

見る。雨降る頻なり。車中ニ去こみ不写小睡。黄河の濁流を

見て人生を觀ず。十一時頃潼関着す。所謂天下の嶮な

り。右倚華山左臨黄河城楼壁亦整修有税関嚴なり。三昇

店ニ突す。陝西ニ入りてより道路の標ヲ併列して其杖振河南に比

して變化なし。車亦大ニして形宜し鋏輪なし。華山を左ニ臨ミ

五時華陰縣大公館に着す。途中城外にて二枚写す。待遇亦佳

なり。十二時入床。潼関ニて贖二斤（二百文）を求む。

華陰縣  
定辺孫知經

劉林立

華山 立二枚ツゝき

明治36年5月7日

六時起床。騎馬華嶽廟を見る。漢碑断片

二三あり。万寿閣にて華山を觀ず。道士俗

氣僧二不変四吊五百文の不■を命じ十二

時帰館。三時再び玉泉院に到る。清翠

無比此塵土洞中睡像明頃なり。道士待厚し

無憂亭を写し後山を覽見して溪流二故

郷の水明を忍び■■を捨て帰る。太和老実可

爰月を踏んで帰る。食后信を認め十二時

入床。

遊歴叩擾不勝庇護感佩

カビ子

華廟 二枚

銘謝之到

全

華山 一無憂 一